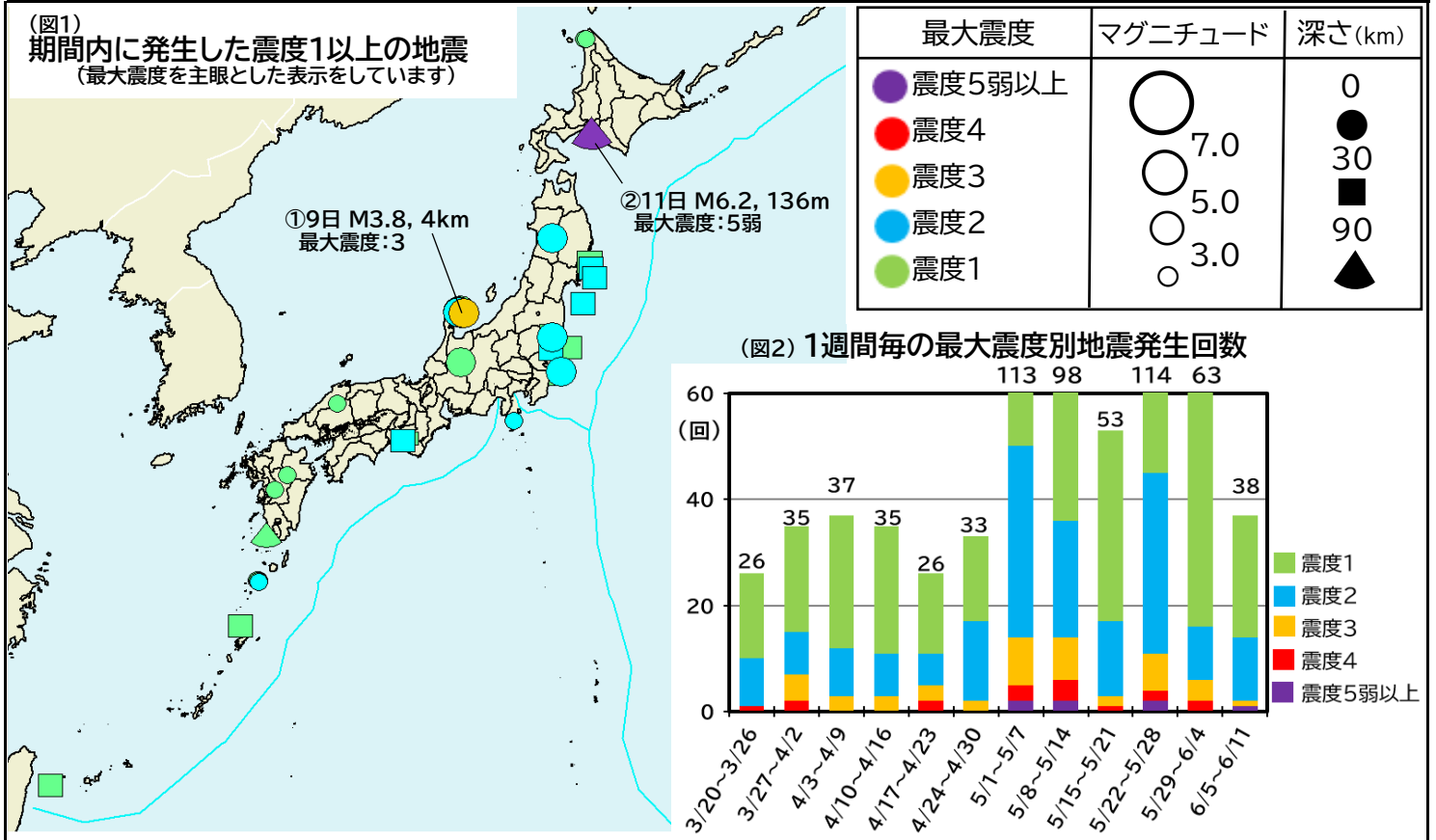


この期間の最大震度は5弱(千歳市などで観測)

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が38回発生。最大震度は5弱(千歳市などで観測)。
- ①6月9日20時45分に能登半島沖で発生した地震(M3.8、深さ4km)により、石川県珠洲市で震度3を観測。この地域では、2020年12月から地震活動が活発になり、2021年7月頃から更に活発になっており、5月5日に珠洲市で最大震度6強を観測する地震(M6.5、深さ12km)が発生するなど、活発な地震活動が続いている。
- ②6月11日18時55分に浦河沖で発生した地震(M6.2、深さ136km)により、北海道千歳市、厚真町 浦河町で震度5弱を観測したほか、北海道から関東、甲信地方及び静岡県にかけての広い範囲で震度4~1を観測。この付近で今回のような深さでM6を超える地震の発生は1981(S56)年1月23日(M6.9、深さ130km、最大震度5(旧震度階級))以来。

トピックス

- 宮城県沖地震から45年 ■
- ・今日6月12日は宮城県沖地震(1978(S53))の発生から45年です。
- ・宮城県は6月12日を「県民防災の日」と制定しており、昨日は県内各地で地震災害に備えた防災訓練が行われました。
- ・宮城県沖地震は約38年間隔で発生しており、この領域を震源域とする地震活動は過去約100年間に4回発生するなど繰り返し被害を受けている。
- ・45年前の地震が特に被害が大きく、地震の揺れにより28人が死亡、1,325人が負傷し、住家の全半壊約7,000棟。特に仙台市で被害が大きく死者28人のうち、ブロック塀や門柱の崩壊による死者が18人であった(日本被害地震総覧による)。現在でも倒壊のおそれのあるブロック塀が多く見られる。
- ・また、谷などを埋めたり傾斜地に土を盛ったりして整備された造成地が崩れたことによる住宅被害が県内数カ所で起きた(防災集団移転促進事業の対象となった)。
- ・12年前に東北地方太平洋沖地震が発生したので、宮城県沖ではしばらくは大きな発生しないだろうと考える向きもあるようですが、そうではありません。この想定宮城県沖地震の領域も東北地方太平洋沖地震ですれ動いているが、観測データから既に次の地震の発生サイクルに入っていると考えられています。政府の地震調査委員会によると1978年の宮城県沖地震と同様なM7.4前後の地震が今後30年以内に発生する確率は、70%~80%程度とされています。
- ・事前の備えが被害を少なくします。家具固定など個人で出来る対策を行って備えていただきたい。

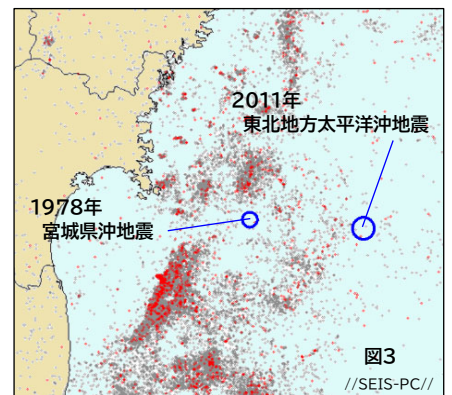


図3:最近の震央分布図(2018年1月1日~2023年6月11日 M≥2.5)に1978年宮城県沖地震と2011年東北地方太平洋沖地震の震央を追記
赤丸:2023年1月1日~6月11日。 灰丸:赤丸以前に発生した地震。